

2021 年度第 1 回学術情報流通推進委員会
議事要旨

1. 日 時:2021 年 9 月 27 日(月)15:00-17:00

2. 場 所:オンライン開催

3. 出席者:

(委員)

池松委員(高エネルギー加速器研究機構), 逸村委員(筑波大学), 今井委員(東京大学), 倉田委員(慶應義塾大学), 前田委員(東京大学), 木下委員(東京大学), 鈴木委員(北海道大学), 竹澤委員(早稲田大学), 林委員(科学技術・学術政策研究所), 中島委員(科学技術振興機構), 武田委員長, 竹谷委員(国立情報学研究所)

(陪席)

土井参事官補佐, 本多係長, 濱崎係長, 安達研修生, 石原研修生, 稲毛研修生, 大澤研修生, 福原研修生(文部科学省), 合田部長, 船守准教授, 平田室長, 林係長(国立情報学研究所)

(事務局)

吉田課長, 片岡副課長, 服部係長(国立情報学研究所)

4. 議事:

議事に先立ち, 各委員から自己紹介を行った。

(1) 前回議事要旨について

メール審議を経て 3/30 付で確定したため, 資料 1 に基づき事務局から要点のみ説明し, 委員会内での確認は割愛した。

(2) 2021 年度学術情報流通推進委員会活動中間報告【報告】

事務局(服部係長)より, 資料 2 及び参考資料 3 に基づき説明後, 武田委員長及び池松委員, 林委員より最新状況について以下の補足説明があった。

【arXiv について】

- ・ 昨年, 事務局長が交代し, システム改善・料金制度のリニューアルなど, 多岐にわたる改革が現在も進行中である。
- ・ Member Advisory Board(MAB)は 10 月に開催予定。代表である武田委員長からコメントいただきたい事項があれば意見をお願いしたい。
- ・ 2022 年から適用される新しいメンバーシッププランは, 購読型ではなく投稿数をもとにした投稿型料金モデルとなる。

【CLOCKSS について】

- ・ 6/23 に開催された Board Meeting において, 香港ノードの撤退と事務局長の交代について説明があった。また, 欠けたノードはスタンフォード大学に 1 台追加され, 12 ノード体制は維持している状況である。

【SCOAP³ について】

- ・ 日本に対する期待額と拠出額とのギャップについては, 今年度も研究コミュニティのうち 3 機関

から拠出いただいた。なお高エネルギー加速器研究機構については、少なくともフェーズ3においては、期待される拠出金の100%の拠出を執行部から確約いただいている。今後は、関係機関(特に高エネルギーに特化している研究所等)に対して継続して拠出を要請していく。

【SPARC Japan セミナーについて】

- ・ 議事5で説明・審議

(3) 今後の学術情報流通推進委員会について【報告】

武田委員長より、資料3に基づき説明後、内容についての質疑応答及び下記意見交換を行った。

- ・ 「研究データ基盤運営委員会」に発展的に集約することだが、少なくとも現状では外部から見るとシステムと人材育成が中心であり、学術流通全体の国際連携やアドボカシーを議論する場とはなっていない。委員会内に新たにワーキンググループを作るなど、広く学術情報を扱うこと、発展的解消が伝わるように顕在化させていただきたい。
- ・ SPARC 本家との MOU の取り扱いはどうなるのか。
 - これからの検討事項であるが、SPARC Japan セミナーの開催を継続するという事情もあり、本委員会の閉鎖と「SPARC Japan」の名称の終了は同義ではないと考えている。
- ・ 発展的解消のために JUSTICE と研究データ基盤運営委員会の情報交流が重要なポイントとなる。セクター間を超えて、建設的な協力体制を築く工夫が必要ではないか。
- ・ 学会の方々との様々な議論においても、SPARC Japan の提供する情報は幅広く、大変有益なものだった。今後もこのような情報を継続的に得られるように、担保いただけるとありがたい。
- ・ これまでの SPARC Japan の活動に関するデータはアーカイブ化していただきたい。
- ・ JPCOAR の活動においても、研修を中心に人材育成を行っていく動きがあると聞いている。例えば SPARC Japan セミナーを JPCOAR との共催で開催する等、NII だけではなく、JPCOAR や JUSTICE 等の組織と連携・調整を図りたい。
- ・ 大学の執行部でオープンアクセスやオープンサイエンスの話題が見られるようになってきている。オープンサイエンス等の情報提供を行ってきた本委員会をこのような状況の中で終了することについて、図書館や学会等の各ステークホルダーへ向けて今後に関する広報を行っていくことが重要ではないか。
- ・ SPARC Japan が果たしてきた役割は大きい。SPARC Japan 活動を信頼してきた大学図書館の方々に対して、何らかのポジティブな発展的なメッセージをお伝えする必要があるのではないか。

※ 後日 NII 内調整の結果「学術情報流通推進委員会」の資料3の2(イ)「国際協調に係る戦略の検討と提言」は NII の「研究データ基盤運営委員会」に集約せず、日本コンソーシアム各代表と学術コンテンツ課の協議のもとで日本コンソーシアムの事務作業を中心に進めていくこととなった。(2022年3月追記)

(4) 「SPARC Japan 活動の振り返りと今後の在り方(仮題)」について【審議】

武田委員長より、資料4-1、4-2に基づき説明後、下記意見交換を行った。

審議の結果、意見交換を元に、資料4-2について文案を再作成し、修正案をメールにて審議し、合意案を完成させ、第2回推進委員会にて審議・承認を行うこととなった。

- ・「おわりに」の表現が少し後ろ向きに思われるため、これまで培った知識の集積やコミュニティ醸成は、委員会終了後の活動にも資することも想定して、よりポジティブなメッセージとしてはどうか。
- ・「おわりに」はむしろ不要ではないか。もしくは、困難さに関する記述は、もう少し前段階に入れ、それをふまえた「今後の方向性」という流れにすべきではないか。
- ・様々なステークホルダーがいる中で、お互いに関係者であっても交流できない状況がある。ステークホルダーの関係が錯綜して複雑化する状況のなかで、メンバー全てと関わることができるようなハブとなる場は絶対に必要だということを「今後の方向性」に是非盛り込んでいただきたい。
- ・URAの存在が書かれていないが、URAは執行部に近いという特性もあり、将来的にURAがこのような活動の大きな担い手となりうることも「未来へのビジョン」や「今後の方向性」に盛り込んでいただきたい。
- ・学術情報流通は図書館だけが担うべきものではないが、図書館が活動の中心となっていることの意義は示すべきではないか。
- ・「今後の方向性」の(1)と(3)の表現にギャップがあり、研究者視点からもう少し整理すべきではないか。
 - ステークホルダー全員が活動や意義を再定義しましょうという趣旨の文章を前文にいれてもよいのではないか。
 - 各ステークホルダーの連携や大学内の組織改革も含めた強力な整備をしないと、本当の意味での研究データプラットフォームを作ることは難しい。ただし、研究者が研究データやプロセスを共有する意味を考えることは、研究そのものに関わることであり、今後の学術研究の在り方自体は当事者である研究者自身も再検討すべき事項である。そのような文脈が伝わるよう研究者視点を盛り込むべきではないか。

(5) SPARC Japan セミナー2021 について【審議】

事務局(服部係長)より、資料 5-1, 5-2 に基づき説明後、SPARC Japan セミナー企画 WG 主査の林委員から補足説明のうえ、下記意見交換を行った。
審議の結果、意見交換の内容を考慮し、開催内容について改めて WG にて検討することとなった。

【SPARC Japan セミナーについて】

- ・全体的にトピックを詰め込み過ぎている印象を受けた。
- ・午前の部「学術情報の今」というタイトルは、企画の意図を推察しづらいのではないか。
- ・「学術情報」というからには、バラエティがあるように見せるべきではないか。研究データポリシーに偏りすぎているように感じる。特に前半の理念的な部分は、趣旨がわかりづらい。
- ・研究データポリシー策定に関して、AXIES-JPCOAR 研究データ連絡会の主催で「大学における研究データポリシー策定ワークショップ」を 9 月から定期的で開催する。従来の参加者層である大学図書館系以外の参加が非常に多く、各機関でポリシー策定に苦慮している状況が伺える。寄せられる要望の中には、ポリシー策定の趣旨説明等基本情報を求めるものもあり、この辺りをセミナーで吸収できればよいのではないか。

(6) その他

ほかに議題等がないことを確認し、終了した。